



阿波徳島藩主・蜂須賀家に伝来した重要文化財「百草時絵葉巻筒」の展示に合わせ、徳島ゆかりの浄瑠璃、「傾城阿波鳴門 順礼歌の段」を、素浄瑠璃で楽しむ会を企画いたしました。現在最も脂ののった演者である、人形浄瑠璃文楽座の豊竹呂勢太夫さんと鶴澤藤蔵さんをお迎えし、迫力ある演奏をお楽しみいただきます。演奏の前には、呂勢太夫さんに浄瑠璃の聴きどころ、ご自身の床本や見台の蒐集についてお話をうかがいます。

重要文化財指定記念特別展 「百草時絵葉巻筒と飯塚桃葉」特別催事

素浄瑠璃

「傾城阿波鳴門

順礼歌の段」

2024年

11月30日(土) 午後3時〜4時(2時45分開場)

場所 根津美術館 講堂

出演者

太夫

豊竹呂勢太夫

三味線

鶴澤藤蔵

〈素浄瑠璃とは〉

数ある人形浄瑠璃芝居のうち、植村文楽軒が大坂ではじめて文楽座が演じる「人形浄瑠璃文楽」は、国の重要無形文化財の指定を受けるなど日本を代表する伝統芸能の一つで、太夫・三味線・人形が一体となった総合芸術です。素浄瑠璃は、そのうち人形がつかない、太夫と三味線だけによる浄瑠璃の演奏のことをいいます。人形がないとつまらないのではないか、難しそうという心配はご無用です。太夫の渾身の語りと三味線の豊かな音色が描き出す物語の情景は、聴覚だけで感じることで、むしろ鮮明に脳裏に浮かび上がってきます。その情感あふれる音楽性をぜひ体験してください。



撮影：小川知子

参加方法

- ・ 10月18日(金)より、根津美術館受付にて参加券を販売いたします。
 - ・ 参加券はおひとり2000円(税込)。
 - ・ 現金でのお支払いとさせていただきます。
 - ・ 参加券とは別に、催事当日の入館料が必要です。
- (根津倶楽部・青山茶会会員は不要)
- 受付で参加券をご提示の上、開催中の特別展入館料1500円をお支払いください。(日時指定予約は不要)
- ・ 定員100名。(自由席)
 - ・ 10月21日(月)から11月1日(金)は展示替え休館中につき、参加券販売は休止いたします。

注意事項

- ・ 中学生以上対象。
- ・ 小学生以下のお子様連れの参加はご遠慮ください。
- ・ 開催中の入退場はできません。
- ・ 電話、FAX、メールではお申込みできません。
- ・ キャンセル待ちは受けつけておりません。
- ・ 災害、停電などのやむを得ない事情による開催中止を除き、お支払いいただいた参加費の返金はできません。

「傾城阿波鳴門 順礼歌の段」とは

「傾城阿波鳴門」は阿波国徳島藩主を玉木家とした設定で、そのお家騒動を題材にしています。

玉木家の家老桜井主膳が悪人の小野田郡兵衛に盗まれた主家の重宝・名刀国次を、藩臣・十郎兵衛とその妻お弓、藤屋伊左衛門らで取り返し、主家が再び安泰になるという物語です。

作者は近松半二で、「百草蒔絵葉筆筥」の制作時期と近い、明和5年(1768)に大坂竹本座で初演されています。順礼歌の段は、長年離れて暮らした母子の切ない再会を描いており、「ととさんの名は十郎兵衛かかさんはお弓と申します」の台詞は有名です。

あらすじ

十郎兵衛・お弓の夫婦は、玉木家の家宝である名刀国次を探すため大坂の玉造に住んでいます。十郎兵衛は名前を銀十郎と変え、盗賊の仲間に入っていました。ある日、お弓が留守番をしていると、十郎兵衛らの悪事が露見し追っ手が迫っているのを早く立ち退くように、との手紙が届きました。お弓が夫の無事と刀の発見を神仏に祈るところに、順礼の娘が現れます。国許に残してきた自分の娘と同じ年頃なので話を聞いてみると、両親を探して徳島からはるばる旅をしてきたという身の上を語ります。そこで両親の名前を聞いてみると間違はなく自分の娘・おつるでした。今すぐに抱きしめ母と名乗りたい気持ちを抑えて国に帰るよう諭しますが、おつるはこのまま置いて欲しいとせがみます。それでも今はそれができない境遇ゆえに心を鬼にして追い返すお弓。おつるの歌う順礼歌が遠のいていくと、こらえきれずに泣き崩れます。しかし、このまま別れてはもう会えないと思い直し、急いでおつるの後を追うのでした。



鶴澤 藤蔵
人形浄瑠璃文楽座・三味線



1965年、九代竹本源太夫(2007年重要無形文化財「人形浄瑠璃文楽太夫」保持者認定)の長男として大阪に生まれる。1976年11歳で十代竹澤弥七に入門し、祖父の前名を名乗って五代鶴澤清二郎となる。1978年鶴澤清治の門下となり、1983年大阪朝日座で初舞台を踏んだ。2011年二代鶴澤藤蔵を襲名。

第17回文楽協会賞(1990)、平成8年度大阪舞台芸術奨励賞(1997)、第68回日本芸術院賞(2012)、第36回国立劇場文楽賞文楽優秀賞(2016)、令和元年度大阪文化祭賞など受賞多数。正確なツボと技巧、絶妙の間と鋭い切っ先を体得し、太夫の息遣いを汲み取りながら演目に合った人物や状況の弾き分けを工夫して、主張のある三味線の妙音を奏でる。



豊竹 呂勢太夫
人形浄瑠璃文楽座・太夫



1965年東京生まれ。1979年四代鶴澤重造に師事して義太夫の手ほどきを受ける。1982年に国立劇場文楽第8期研修生に編入。1984年に五代竹本南部太夫に入門し竹本南寿太夫と名のり、同年国立文楽劇場で初舞台。1985年に五代豊竹呂太夫の門下となり、1988年に豊竹呂勢太夫と改名。2000年に八代豊竹嶋太夫の門下となる。

第28回国立劇場文楽賞文楽優秀賞(2009)をはじめ、第17回日本伝統文化振興財団賞(2013)、第69回芸術選奨文部科学大臣賞(2019)、第45回松尾芸能賞優秀賞(2024)、など受賞多数。明朗な発声と伸びやかな美声で、現在の文楽の中で最も充実した太夫の一人。浄瑠璃本や見台の収集など、資料調査の見識にも定評がある。



重要文化財指定記念特別展「百草蒔絵葉筆筥と飯塚桃葉」 2024年11月2日(土)～12月8日(日)

根津美術館で所蔵する、飯塚桃葉(初代・?～1790)が制作し、阿波徳島藩主・蜂須賀家に伝来した「百草蒔絵葉筆筥」が本年、新たに国の重要文化財に指定されました。豪華な内容品をすべてご覧いただくと共に、その最大の特徴である蓋裏の百草図をてがかりに、本作の制作背景を18世紀後半の博物学と美術の様相の中に探ります。また、作者である飯塚桃葉の代表作をまとめて取り上げる初めての機会となります。博物大名のネットワークから生まれた美術の世界をお楽しみください。

同時開催 展示室5 花と鳥たちの楽園
展示室6 炉開きの茶会

公益財団法人 根津美術館

〒107-0062 東京都港区南青山6丁目5番1号

<https://www.nezu-muse.or.jp> 電話 03-3400-2536

根津美術館
NEZUMUSEUM

